

## [普及事項]

成果情報名：リンゴ「秋田5号」に対するNAC水和剤の摘果効果

研究機関名 果樹試験場 品種開発部

担当者 照井 真・高橋 功

## [要約]

「秋田5号」は、NAC水和剤1,200倍を「ふじ」の散布適期に合わせて同日処理することで側果で高い落果効果が認められ、粗摘果作業を省力化できる。

## [キーワード]

リンゴ・秋田5号・薬剤摘果・NAC水和剤

## [普及対象範囲]

県内リンゴ栽培地域

## [ねらい]

本県の職務育成認定品種であるリンゴ「秋田5号」は、その特性から主に加工用としての果実生産が期待される。本品種に対しては、多大な労力を要する摘果作業を薬剤摘果で省力化することで栽培規模の拡大が見込める。そこで、「秋田5号」に対するNAC水和剤の処理効果を明らかにするとともに、現場での利便性のため、栽培面積が多い「ふじ」との同日処理が可能か検討する。

## [成果の内容及び特徴]

- 1 「秋田5号」の満開期は「ふじ」とほぼ同時期だが（表1）、NAC水和剤処理時の中心果横径は「ふじ」よりやや小さい（表2）。
- 2 「秋田5号」に対して、「ふじ」の散布適期（中心果横径7mm程度）にNAC水和剤1,200倍液を散布すると、「ふじ」とほぼ同等の側果落果率が得られる。また、中心果の落果率は「ふじ」と同等かやや高いが、過剰摘果とはならない（表2）。
- 3 果実や葉に薬害の発生はない。

## [成果の活用上の留意点]

- 1 処理時に中心果が小さく（横径6mm以下）、側果と大きさの差が無いときは、効果が劣る可能性がある。

[具体的なデータ等]

表1 「秋田5号」の満開日とNAC水和剤の処理時期(2022~2024年)

試験年	満開日		処理日 (満開後日数)	
	秋田5号	ふじ		
2022年	5月6日	5月6日	5月19日	(13)
2023年	5月1日	5月1日	5月19日	(18)
2024年	4月28日	4月29日	5月10日	(11)

処理日 (満開後日数): 「ふじ」を対象

表2 「秋田5号」に対するNAC水和剤の摘果効果(2022~2024年)

試験年	品種名	試験区	樹(枝)数	果そう数(/樹)	中心果横径(mm)	着果数				落果率(%)	
						処理時		処理約2週間後			
						中心果	側果	中心果	側果	中心果	側果
2022年	秋田5号	処理区	3	25	6.5	25.0	96.0	20.0	35.3	20.0	63.2
		無処理区	3	31	6.8	31.0	120.0	29.0	69.0	6.5	42.5
2023年	秋田5号	処理区	3	30	6.3	30.0	110.7	20.3	46.0	32.3	58.4
		無処理区	3	30	6.8	30.0	108.3	26.7	85.7	11.1	20.9
2024年	秋田5号	処理区	3	30	5.5	30.0	120.7	29.0	96.7	3.3	14.4
		無処理区	3	30	5.5	30.0	116.3	30.0	109.3	0.0	6.0
2022年	ふじ	処理区	3	30	7.0	30.0	107.0	25.3	41.7	15.6	61.1
		無処理区	3	30	7.2	30.0	93.7	27.0	22.3	10.0	76.4
2023年	ふじ	処理区	3	30	7.2	30.0	111.0	29.0	53.0	3.3	52.8
		無処理区	3	30	7.2	30.0	111.0	29.0	53.0	3.3	52.8
2024年	ふじ	処理区	3	30	6.0	30.0	132.0	29.0	59.3	3.3	54.9
		無処理区	3	30	5.7	30.0	115.0	29.0	92.3	3.3	19.8

2022年: 処理日5月19日 (展着剤としてラビデン3S 10,000倍加用)、調査日6月7日(処理19日後)

2023年: 処理日5月19日 (展着剤としてラビデン3S 10,000倍加用)、調査日5月31日 (処理12日後)

2024年: 処理日5月10日 (展着剤としてラビデン3S 10,000倍加用)、調査日5月23日(処理13日後)

樹(枝)数: 「秋田5号」は1区3結果枝、「ふじ」は1区3樹

[その他]

研究課題名: 加工用リンゴの超省力栽培法の確立

研究期間: 令和6年度

予算区分: 配当 (園芸振興課「生産基盤強化事業」)

掲載誌等: なし